

用具・装具規定 及び 運用規定

令和4年 静岡改定

【基本方針】(規定の目的)

1. 公正公平に競技する。
2. 用具による差異を無くし、平等な条件で競技する。
3. 安全面を考慮し、危険防止に努める。
4. 各学校や個人の経費負担が過大にならないようにする。
5. 学生野球(義務教育の一環)であることから、華美にならないようにする。
6. 高校野球への円滑な移行を図る。

【本規定の適用について】

1. 本規定は、東海北信越競技部会で、追加、削除及び変更等を決定し、速やかに各県に通知する。
2. 本規定はその趣旨から、可能な限り各県の全大会において適用することが望ましい。本連盟以外の主催大会では、主催者と協議し適用有無について確認する。
3. 本規定は内規として、競技部内の共通理解事項として位置付ける。

【補 則】

1. 本規定に対する問い合わせは、県専門委員を通して行う。
2. 本規定に記載されていない事項については、公認野球規則ならびに全日本軟式野球連盟競技者必携に従う。
3. オーダー製品の購入、使用は可能な限り控える。(特別な事情を除く)
4. 指導者は本規定の主旨を理解し、公平性と教育的側面を考え指導にあたる。

1. ボール

- (1) 使用するボールは(公財)全日本軟式野球連盟公認球M号とする。

2. バット

- (1) 一本の木材で作った木製バットであることのほか、竹片、木片などの接合バットであること。木製については公認制度を適用しない。
- (2) 金属・複合バットは、J・S・B・Bのマークをつけた、全日本野球連盟公認の「一般用」の表示のあるものとする。
- (3) バットの握りの部分については、市販のグリップテープを使用する。グリップテープが切れ明らかに止まっていないものは使用できない。
- (4) くぼみや亀裂の認められるものは使用できない。また、金属製バットのヘッドキャップや金属疲労、木製バットのひび割れなどを確認し大会に持参する。

3. ユニフォーム

- (1) 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形のユニフォームを着用する。ただし、複数校合同チームのユニフォームは、それぞれの学校のものを使用する。コーチでグラウンドに出ない者は、平服(ポロシャツ、スラックス、帽子)を認める。女性の場合もこれに準ずる。サングラスは使用しない。
- (2) 胸マークは校名、校章およびそれに準じるものとする。
- (3) 選手のユニフォームには、規定の大きさの背番号をつける。

- (4) 帽子、アンダーシャツ、ベルト、ストッキング、シューズもユニフォームの一部である。
- (5) ユニフォームの背中に個人名はつけない。
- (6) ノースリーブの上着は認めない。
- (7) ロングタイプ（裾を極端に絞った変形ズボン）や裾幅の広いストレートタイプのパンツ、ベルトレスパンツは使用できない。
- (8) ストッキングについて次の通りとする。
 - ①危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ②ストッキングはアーチが見える形状とする。
 - ③ハイカットストッキングは禁止する。
- (9) 学生野球であることから、華美なものや高価なものは控える。
（上着の前面と背面のツートンカラーは使用不可。切りかえしやラインの制限はない）
- (10) 左袖に都道府県名を必ず表示する。
- (11) アンダーシャツの首まわりの形状や袖の長さの規定はないが、左右の袖の長さが違う物は使用できない。
- (12) 背番号については以下の規定に従う。
 - ①監督は背番号30番を付ける。コーチは29, 28番をつける。
 - ②主将の背番号は指定しない。
 - ③欠番が出る場合は若い番号から登録する。
- (13) エナメル性のベルトは使用しない。
- (14) ユニフォームの着用にあたって次の点を注意する。
 - ①背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が続き番号であること。
 - ②見苦しくないように着用する。
 - ア) 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - イ) パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ウ) 肩の部分をたくし上げない。
- (15) スコアラーの服装は、選手と同じユニフォームまたは在籍中学校の制服とする。

4. スパイク

- (1) スパイクはチーム全員が一色（白or黒）のものを着用する。エナメル不可。
ハイカットやミドルカットについての使用制限はしない。
- (2) ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (3) 金具はポイント式を使用してもよい。

5. グラブ

- (1) グラブ、ミット類は野球規則に準ずる。本体色は茶もしくは黄色系統とし、カラーグラブ、ミットは使用できない。ただし、黒色については使用できる。
- (2) 投手用のグラブは縫い紐、しめ紐、ウェブを含む全体が一色であること。
- (3) 野手のグラブの締め紐は本体色と同系色とする。ただし、黒色と茶系色の締め紐に本体色にかかわらず使用できる。締め紐は長すぎないこと。親指の長さ程度にする。
- (4) 刺繍で選手個人名、番号、その他の文字を入れるなどしてはならない。
- (5) 捕球を容易にするための目的で、特殊な突起物や材質の違う物をグラブの表面に加工した形状の商品の使用は認めない。

6. ヘルメット

- (1) 校名、校章、頭文字イニシャルを表示する。番号などの表示を認める。商標についての規定は設けない。

- (2) 亀裂のあるものや内側の保護パッドがついていないものやパッドが固定されていないものは使用できない。
- (3) チームとして、色やデザインは同一のものを着用する。
- (4) 捕手のヘルメットの色は、野手の帽子と同色とする。

7. 捕手の装具

- (1) マスクは連盟公認のも(SGマーク)の使用し、必ずスロートガードを装着する。ただし、スロートガード一体型のマスクは装着しなくてもよい。
- (2) 公認のレガーズ及びプロテクター、SGマークのついた捕手用のヘルメットを装具する。
- (3) 膝痛軽減用パッドの使用を認める。色は黒または紺一色とする。
- (4) レガーズおよびヘルメットに亀裂や破損のあるものは使用できない。
- (5) 投球練習時の装具も(1)、(2)の規定に準ずる。(ブルペンも同様)
- (6) 急所(ファイル)カップを使用する。控え捕手も着用すること。

8. 手袋、リストバンド

- (1) 野球用の手袋で打者、走者、投手以外の守備に使用できる。リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。
- (2) 色は白または黒色の単色のみ(高校野球ルール対応品)とする。ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (3) リストバンドは使用できない。また、サポーター(手首や指を固定・保護する目的の物)の使用は、医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。

〈補足〉

- オーダー品等高価な物は使用しない。
- 走者時に手袋を外す場合は、自分のポケットにしまうこととし、ランナーコーチに渡すことはしない。
- 出塁時に走者用の手袋につけかえることは、試合進行の妨げになるので認めない。

9. その他の用具

- (1) 選手はサングラスを使用しない。
- (2) 手首ガード、レッグガード、エルボーガードは原則として使用しない。事情があり使用を希望する場合は、大会本部に申し出て許可を得る。
- (3) スプレイの使用は手袋の摩耗が激しく、打者が優位になることがあるので禁止する。

※上記に記載のない内容は、野球規則ならびに全日本軟式野球連盟競技者必携に従う。

中学校体育連盟 軟式野球競技部 大会特別規定及び競技上の注意事項

【試合前】

1. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合には棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
2. 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の30分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。監督と主将は打順表を6部持参し、登録原簿と照合のうち、前の試合の4回終了時に本部1名と担当審判員立ち会いのもと攻守を決定する。
3. ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
4. シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - (2) 時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員(当該校生徒)をつけて行うことができる。ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。(投手が守備練習を行う際もマウンドは使用しない)
5. 用具装具については、試合前に審判員の確認に応じなければならない。
6. ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認めるが、危険防止のため間隔はしっかり空けて行う。
7. 第2試合以降の先発投手の投球練習は、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。

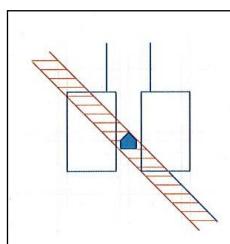
【試合中】

8. 正式試合は、通常7イニングから成る。得点差によるコールドゲームは適用する。試合の成立は、5回以後とする。不成立の場合は、再試合とする。ただし、5回以降同点の場合に暗黒・降雨その他の事情で継続不能となった場合は、継続試合とする。(別記参照)
9. 使用するボールは、本部より提出されたボールを使用する。
10. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
11. 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。
12. 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者席で素振りは行わない。ただし、低い姿勢で待つ必要はない。
13. 投手(救援投手も含む)の準備投球数は、初回に限り、7球以内(1分を限度)が許される。次回からは、3球以内とする。また、キャッチャーの装具準備時において2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。捕手、予備捕手は安全のため、マスクをかぶり、カップを付けること。
14. 投手の投球制限
投手は、球数を100球までとする。100球到達の打者まで投げられる。球数の計測は本部が行う。
[特別規則第2項] 12秒及び20秒ルール
投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、球審は走者が塁にいない場合には、ただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球した時は、20秒の計時をリセットする。
15. ベンチ内でのメガホンの使用は、監督に限る。
16. 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
17. 審判員に対して規則適用上の疑義については当事者と監督が直接、質問することができる。
18. 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイ

ムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。

19. 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
20. 突発事故が起きた際、臨時代走が必要だと審判団が判断した場合は、臨時代走は投手、捕手を除く前打者とする。
21. 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心がける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
22. 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
23. 危険防止のため次のことを徹底する。
 - (1) マスコットバット、バットリング、鉄棒および公認球以外のボール等の球場への持込を禁止する。
 - (2) 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。
 - (3) 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・急所カップを着用すること。
 - (4) 打者、次打者と走者とランナーズコーチは両耳付きヘルメットを必ず着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
 - (5) 規則6・01(i) (【原注】および【注】含む) (本塁での衝突プレイ) の適用について、『ボールを持たない捕手(野手)は下図の斜線部分に足を踏み入れて送球を待つことはできない』こととする。

【図】



24. 規則3・03原注〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外、他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。
[規則適用上の解釈]
5・10 プレイヤーの交代では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨から離れて利用されることのないように留意されなければならない。
25. 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。(3・03注関連)
26. 監督が、投手のところへ行く回数の制限 (8・06関連)
 - (1) 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回行くことができる。
 - (2) 監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。“中学校野球”では、交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。
 - (3) 捕手を含む内野手が、一試合に投手の所へ行ける回数を、7イニングスの試合にあっては3度以内とする。そこへ、監督が行けば双方一度として数える。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)となった場合は、2イニングスに一度行くことができる。
27. 攻撃側のタイムの回数制限
 - (1) 攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、2イニングに1回とする。
 - (2) 監督が、相手チームタイム中、打者、走者を呼び、指示を出すことは差し支えないが、その後のプレイの再開を遅らせた場合は、攻撃タイム1回とする。(便乗タイム)
28. 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサ

インを出すことを禁止する。

29. 7回を完了して同点の場合は、次の方法により勝敗を決定する。

(1) 9回まで延長戦を行う。

(2) (1) を終了して同点の時は、10回から即タイブレーク方式とする。(勝敗が決するまで行う)

30. 応援団は次の事を守って応援すること。なお、応援団については、監督が責任をもつ。

(1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チーム選手が不快な思いをいだくような言動は禁止する。

(2) 太鼓などの鳴り物やブラスバンドの応援は認めるが、自チームが攻撃をしている場面での応援とする。自チームが守備の時は、座っていることが望ましい。

(3) 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。

(4) 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしたりしない。

(5) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。

(6) 球場の設備を傷つけたり、試合を妨害したりするような応援はしない。

(7) メガホンを使用してもよい。

(8) 笛(ホイッスル)は使用してもよいが、投手が投球動作に入ったら慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に笛で盛り上げることをしないようにする。

(9) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。

(10) 基本的には、事故防止の観点から、スタンドへのテント設営は禁止とする。ただし、屋根のないスタンドに関してのみ、熱中症の心配が予想されるためテント設営を認める。(必ず固定する)

【試合後】

31. 試合終了後の挨拶は、ホームプレートをはさんですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。

32. 各チームの監督は、球場を去る前(試合終了30分以内)に大会本部に連絡をし、次の試合の日程などを確認する。

【その他】

33. 1チームの編成は、監督1名、選手18名以内(スコアラーを含む)とする。コーチが必要な場合はその他に教員(2名まで、ただし1名は外部可)を追加することができる。校長はこれ以外にベンチに入ることができる。

34. 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形のユニフォーム・スパイクを着用する。ただし、複数校合同チームのユニフォーム・スパイクは、それぞれの学校のものを使用してもよい。監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ)に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮する。サングラスは使用しない。(平服の者は、緊急時対応(怪我等)以外はグラウンドに出ることができない)

35. 監督は、背番号30番をつける。コーチは29, 28番をつける。

36. 選手がテーピングをする場合、露出する部分については肌色に近い色のものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

37. 選手の髪型や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。

38. 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。試合開始時刻は30分前まで早めることがある。ただし、天候等による特別な事情による場合にはその限りではない。また、降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。

39. 選手のユニフォームには、規定の大きさ(文字の大きさは、1文字縦20cm、横16cm、太さ4cm)の背番号をつける。背番号は一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が続き番号であること。

40. 選手はサングラスを原則使用しない。医療を目的としたテーピング等の使用は認める。

41. 登録選手に突発事故が生じ、登録選手を変更する場合は、自チームの初戦の前までに受付で登録選手変更願(中体連ホームページ)を添えて、申し出ること。

42. ボールボーイ、バットボーイ、シートノック時にノッカーにボールを渡す生徒(選手)は、いずれも必ずヘルメットを着用する。

43. アップに関して

- (1) 球場内でのアップ人数は以下のようにする。
登録メンバー（選手、監督、コーチ）と補助員3名のみ
 - (2) 球場内アップの内容
ハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。
 - (3) 球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第1試合チームはメンバー交換まではチームで統一されたTシャツも可とする。（アンダーシャツのみは禁止）
 - (4) グラウンドに出る際は、必ず着帽する。
44. 試合中の控え選手のグラウンド内のアップはバッテリーを含む4名以内とする。キャッチボールのみ認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球も禁止）ただし、イニング間は上記のアップを試合の進行に妨げにならない範囲で許可する。ただし、グラウンド内にブルペンがない場合は、外のブルペンは自由に使ってもよい。

別 記

① 後攻の勝ち

0	0	0	0	0
0	0	1	0	

② 後攻の勝ち

0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1

③ 継続試合（教育的配慮）：6回の表、先攻が2点を入れてなおも攻撃中

0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	1	

③ 継続試合：6回の表、先攻が1点をとって攻撃中

0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	

④ 継続試合

0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	

⑤ 継続試合：6回の裏、後攻が1点をとって攻撃中

0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	1

⑥ 再試合

0	0	0	0	0
0	0	0	0	

⑦ 再試合

0	0	0	0
0	0	1	